

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向 令和7年度9月号

○ 概要

- (1) 令和7年度9月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は7,179億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）+7.4%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は9,937円（伸び率+4.8%）であった。（→P.1,2）
 調剤医療費の内訳は、技術料が1,929億円（伸び率+6.2%）、薬剤料が5,235億円（伸び率+7.9%）、薬剤料のうち、後発医薬品が948億円（伸び率+4.6%）であった。（→P.4,5）
- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料5,579円（伸び率+4.1%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、1種類当たり投薬日数、1種類1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.79種類（伸び率+0.0%）、28.6日（伸び率+3.0%）、70円（伸び率+1.1%）であった。（→P.8,9）
- (3) 内服薬の薬剤料4,030億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）+251億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは39その他の代謝性医薬品の766億円（伸び幅+37億円）で、伸び幅が最も高かったのは42腫瘍用薬の+73億円（総額577億円）であった。（→P.13～19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	4,030 億円 (+251 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(766 億円)	42 腫瘍用薬 (577 億円)	21 循環器官用薬 (577 億円)
0歳以上	16.6 億円	44 アレルギー用薬 (4.2 億円)	22 呼吸器官用薬 (3.2 億円)	61 抗生物質製剤 (2.3 億円)
5歳未満	(▲1.6 億円)			
5歳以上	97.3 億円	44 アレルギー用薬 (29.9 億円)	11 中枢神経系用薬 (28.3 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(8.2 億円)
15歳未満	(+2.2 億円)			
15歳以上	1,519 億円	39 その他の代謝性 医薬品(291 億円)	11 中枢神経系用薬 (285 億円)	42 腫瘍用薬 (191 億円)
65歳未満	(+101 億円)			
65歳以上	794 億円	39 その他の代謝性 医薬品(179 億円)	42 腫瘍用薬 (150 億円)	21 循環器官用薬 (126 億円)
75歳未満	(+21 億円)			
75歳以上	1,604 億円 (+128 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(287 億円)	21 循環器官用薬 (277 億円)	42 腫瘍用薬 (232 億円)

- (4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では9,937円（伸び率+4.8%）で、最も高かったのは福井県（11,877円（伸び率+8.8%））、最も低かったのは佐賀県（8,719円（伸び率+5.0%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは福井県（伸び率+8.8%）、最も低かったのは福島県（伸び率+2.8%）であった。（→P.31～32）

«後発医薬品の使用状況について»

【後発医薬品割合】(→P.39)

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^{注1)}	91.4 %	+4.7 %
薬剤料ベース（新指標） ^{注2)}	78.4 %	+9.6 %
後発品調剤率	80.3 %	+0.3 %

注1) 【後発医薬品の数量】 / ([後発医薬品のある先発医薬品の数量] + [後発医薬品の数量]) で算出。

注2) 【後発医薬品の薬剤料】 / ([後発医薬品のある先発医薬品の薬剤料] + [後発医薬品の薬剤料]) で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】(→P.40~41)

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+4.6 %	+12.5 % (15歳以上 20歳未満)	▲0.4 % (70歳以上 75歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース、新指標）	78.4 %	87.5 % (100歳以上)	67.1 % (10歳以上 15歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	91.4 %	93.9 % (100歳以上)	90.4 % (15歳以上 20歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】(→P.46~50)

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	815 億円 (+47 億円)	21 循環器官用薬 (250 億円)	11 中枢神経系用薬 (147 億円)	23 消化器官用薬 (92 億円)
0歳以上	6.8 億円	44 アレルギー用薬 (3.4 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.4 億円)	62 化学療法剤 (0.3 億円)
5歳以上	15.8 億円	44 アレルギー用薬 (8.8 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.0 億円)	11 中枢神経系用薬 (2.0 億円)
15歳未満	(▲0.3 億円)			
15歳以上	283 億円	21 循環器官用薬 (70 億円)	11 中枢神経系用薬 (69 億円)	44 アレルギー用薬 (27 億円)
65歳未満	(+13 億円)			
65歳以上	160 億円	21 循環器官用薬 (60 億円)	11 中枢神経系用薬 (21 億円)	23 消化器官用薬 (18 億円)
75歳未満	(+5 億円)			
75歳以上	349 億円 (+28 億円)	21 循環器官用薬 (120 億円)	11 中枢神経系用薬 (55 億円)	23 消化器官用薬 (47 億円)

【後発医薬品 都道府県別】(→P.55~59)

	全国	最高	最低
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料	1,312 円	1,702 円(北海道)	1,119 円(佐賀県)
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+2.1%	+4.6 %(奈良県)	▲2.3 %(鹿児島県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	91.4 %	94.6 %(沖縄県)	88.9 %(東京都)
新指標による後発医薬品割合（薬剤料ベース）	78.4 %	83.7 %(岩手県)	73.6 %(徳島県)
後発医薬品調剤率	80.3 %	83.9 %(秋田県)	77.0 %(東京都)

[利用上の留意点]

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和7年度9月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。